

# 令和5年度 第6回 豊田市石野地域会議 会議録

開催日時	令和5年9月26日(火)	開会	開会
		午後6時55分	午後8時25分
会場	石野交流館1階 多目的ホール		
出席者	地域会議委員：14名		
	会長：富田 和久 副会長：溝上 喜美男		
	委員：阿部 金一 伊藤 充繁 宇野 文康 川井 秀和		
	川井 正弘 河原 美枝子 小池 伸二 小山 伸二 鈴木 敬樹 藤村 信治 三宅 乃婦香 森久 剛		
欠席者	2名( 中田 実 松井 茂 )		
オブザーバー	豊田市議会議員：鈴木 昌秋		
傍聴者	1名		
事務局	豊田市 安田副市長 地域振興部：中川室長 猿投支所：広瀬支所長、太田副支所長、井沢主査 企画政策部：都築副部長、企画課：野依課長、都市計画課：西岡担当長		
内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊田市民の誓い(唱和)</li> <li>2. 会長あいさつ</li> <li>3. 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問について             <ul style="list-style-type: none"> <li>・副市長あいさつ</li> <li>・諮問書の授受</li> <li>・企画課、都市計画課より諮問の概要説明</li> <li>・副市長との意見交換</li> </ul> </li> <li>4. 令和6年度の地域課題解決事業について</li> <li>5. わくわく事業2次募集審査結果について</li> <li>6. 情報共有・事務連絡</li> </ol>		

## ■議事(要約)

### 2 会長あいさつ

### 3 第9次豊田市総合計画策定に関する諮問(資料1~3頁、前回配付資料)

#### ■副市長あいさつ

- ・今回の諮問は、第9次豊田市総合計画(以下「9総」という。)を策定する前段の部分で、これからのまちづくりを進める上で皆さんの大切に思っていることをお聞きするもの。
- ・私自身が現役時代に第8次豊田市総合計画(以下「8総」という。)の策定に携わってきた。以前の計画では産業・文化・交流という都市の目線であったが、8総は市民のみなさんと一緒に力を合わせてまちづくりを行うということで、市民のみなさ

んから見た将来都市像として「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」をコンセプトに進めてきた。

- ・「つながる」ということを重視しており、つながりには、人と人、人と地域や世代と世代をつなぐなど色々ある。最近の市の施策にも「つながる」が取り入れられてきた。「つくる」は豊田市がものづくりのまちであること、「暮らし楽しむまち」は、ベースにある皆さんが暮らしを楽しめる、市民の幸せの形をイメージして設定した。
- ・重点施策に、超高齢社会への適応がある。2010から2025年にかけて、豊田市の75歳以上の高齢者が倍増する推計があって、他地域よりも早い。これに対応することに危機感を持ち、重点施策として設定した。推進するための組織としては、新たに生涯活躍部を作り、文化・スポーツなど皆さんが生涯を通して楽しんで生き生きと活動に参加し、主役となるような取組を行っている。保健部では、介護予防も含めて健康維持できるような取組、介護予防では「ずっと元気プロジェクト」、福祉部では地域包括支援センターの整備、医療センター内に在宅医療や在宅看護の人材育成も含めて取組が進むようにしてきた。9総では2050年くらいを展望し、どんな方向性とするかを諮問させていただいた。

#### ■ 諮問書の授受

副市長から会長に諮問書を手交

<地域会議委員との写真撮影>

#### ■ 諮問の概要説明（資料2・3頁）

企画課、都市計画課からポイントを絞って説明

#### ■ 意見交換会

（委員）

- ・豊田市の10年後の人口は？

（企画課）

- ・正確なデータは今ないが、2019年から人口減少している、自然減少が拡大してきている。豊田市の場合、社会増減は経済状況に左右され、コロナ禍前後で外国人の動向で変化があった。外国人はコロナ後に急増しており、2万人に迫る勢いである。日本人は減少傾向であり、出生率でコロナ前が1.65、コロナ後で1.4人になっている。増加するためには2.07以上が必要。その間の流入人口は少なかった。

（委員）

- ・人口はどうやっても増えない状況となっている。それであれば若者の教育や外国人の住みやすい環境にするなど、そういったことが必要ではないか。

（副市長）

- ・今後の施策を考える上で、非常に重要なことだと思う。

（委員）

- ・石野地区は田舎なので、高齢者の医療や交通をどういう風に充実させるか問題がある。

(副市長)

- ・医療で言えば、在宅医療や在宅看護が充実していきいているので、以前に比べて良くなっており、ぜひそれらを使っていたきたい。交通の話も併せて地域会議で議論していただければと思う。

(委員)

- ・石野地区は緑が多いが、農業は衰退してきている。今のままでは耕作放棄地だらけになる。将来的には石野地区は農村という位置づけにならない。

(副市長)

- ・農業は国策に大きく左右される部分がある。米価も低く農業従事者の高齢化も著しい中、発想を変えていく必要があると内部では考えている。

(委員)

- ・産業構造の変革により今後、自動車産業のEV化が進むと、ガソリン車で必要だった部品が不要になることで事業所が減り、雇用がなくなり、人口が減っていくと想定される。そこには触れられていないが、どう考えていくのか。

(副市長)

- ・EVについては随分前から言われているが危惧していることである。さらにEVだけではなく、CASEなど自動車産業は大きく変わってきている。産業について、直接市が何かをするというのは難しい面もあるが、中小企業の皆さんが持っている技術を把握し、補助金などを活用して伸ばせるところは伸ばして、変革に対応していけると良い。市内部では色々なケースをシミュレーションしている。

(委員)

- ・自然の保全・維持、次世代への継承とあるが、施策的に取り組まないと、難しいと思う。森林・里山等の環境保全などは森林課が間伐などを実施していると把握しているが、優良農地の維持というのは、高岡や上郷をイメージしているのか。中山間地なども意識してほしい。山が荒れると災害につながるの、ここを重要視してほしい。

(副市長)

- ・東海豪雨などの経験を踏まえて、山の管理は大切であると認識している。森の団地化ということで間伐を進めている。全国の中でも森林課を設けて山を管理している自治体は少ない。業界雇用や最近の災害を踏まえ、森林を守ってきているし、今後も見直しをしながら進めていきたい。南部では大規模農業を目指すということもある。発想を新たにしながら進めていく必要がある。

(委員)

- ・この辺りは、猿投駅の「えきちか居住誘導エリア」なのか、農山村にあたるのかどちらか。自分が住んでいるこの地域も獣害被害などで荒廃が進んでいる。いいアイデアがあれば教えてほしい。

(都市計画課)

- ・人口減少や農地荒廃は全国的な課題で、土地の管理をどうしていくかという問題

は、個々人の管理では限界がある。地域で土地を管理していくという発想が一つある。具体的な施策はこれからですが、土地の在り方について考え方を変えていく必要がある。

(委員)

- ・ 施策により人が入ってきている地域もある。人口が減っている地域に若い人が来てくれば、土地の管理はしてくれなくても草刈りを手伝ってくれることもある。ペットの散歩もしやすく石野は住みやすい地域と感じているので、そういう若い人がきてくれる施策をお願いしたい。

(委員)

- ・ 豊田市開発審査会基準第18号(以下「18号」という。)の変更で新たに住宅を建てられなくなった。限界集落で45連たんは到底無理である。地域のバランスを考えて、一律の基準ではなく限界集落を除くなどのきめ細かい対応が必要である。

(副市長)

- ・ 想定している形ではない住宅の開発が為されたため、石野地区でも小学校区単位での制限となった。最初はもっと素朴に考えており、地域に入りたいと望む人が家を建てられるようにと進めていたが、事業者が後追いでインフラ整備が必要な想定外の開発を行ってきたため規制をかけた。

(委員)

- ・ 18号により耕作放棄地に家が建てられたが、農振農用区域になっていると特に開発がしにくい。18号で住宅が増え、子どもも増えたことで小学校の維持にかなり貢献した。今後もそういった施策があるといい。18号のことは各論の話で、決定したことではあるが、いい石野地区になるようにということで、答申の中に盛り込めれば良いのでは。

(委員)

- ・ 交通の取組として、自動運転のモデル地域としてはどうか。シャトルバスなどそういったものをいち早く取り入れてもらえれば。

(副市長)

- ・ 今年から来年にかけて中心市街地では玄関口バスで実証を行う。以前は交通量の少ない地域でゆっくり自動運転という取組を名古屋大学と実証でやった経緯もある。様々な地域で取り組まれているが、まだ途上である。今回の構想くらいの長い目で見れば自動運転も実現化するので、交通の可能性としてはあると思う。

(委員)

- ・ 資料を見て、各論ではなくもっと上位の基本的な考え方について求めるという認識で見ると、非常によくできている。ただ、これを28地域会議に同じ投げかけをするのはもったいない。以前は各論で地域の意見をきいており、大変だったが、地域の意見を聞く機会となり良かった。広く市民に意見を募るということで、意

味があると感じた。今回は、どうやって地域の意見の吸い上げをするのか。

(副市長)

- ・第6次総合計画を策定する際には、地域での意見を聴いた経緯がある。これまでの総合計画はそれぞれ特徴をもって作ってきているが、第6次総合計画ではうまく意見が反映しきれなかったという反省点がある。方向性以外に意見を言うてはダメということではなく、個々の話は意見として書いていただいて問題ない。

(委員)

- ・地域ごとの計画はなくても、分野ごとの計画は出てくるのか。

(副市長)

- ・総合計画でも基本施策として分野ごとの分類はあるが、別に分野別の詳細な個別計画があり、それらは総合計画に沿ったものとなる。

(委員)

- ・総合計画は非常に範囲が広くて、どんなことにも対応できる作りになっているのは良いが、課題が洗い出されて網羅した内容になっているというものが欲しい。課題を整理し、その課題がどの地域に当てはまるかを考え、どれが石野に関係があるものなのか、それを具体的にどう落とし込むかという作り方はしているのか。先進技術といっても沢山あるとおもうが、市内にどんなものがあるのか。

(副市長)

- ・現時点で課題を網羅できているわけではない。地域会議への諮問と同時に庁内各課から出てきた課題をこれから整理していく。その後、地域からの意見と庁内から出てきた課題を組み合わせしていくことになる。先進技術は特定の分野では知見があるため、それらを見据えた記述である。

※資料の説明と意見交換会の内容を踏まえて、意見があればワークシートに記入し返送するよう依頼（すべてを埋める必要はない）。

#### 4 令和6年度の地域課題解決事業

- ・地域課題解決事業 事業計画書の変更点について説明（資料4・5頁）  
→意見なし
- ・石野中学校防災キャンプで実施した内容等について説明（資料6・7頁）  
→意見なし

#### 5 わくわく事業2次募集審査結果

2次募集で交付決定した1団体について紹介（資料8～12頁）

#### 6 情報共有・事務連絡

- ・情報共有なし

(次回の予定)

日時：令和5年10月31日（火） 午後7時から

場所：石野交流館 1 階 多目的ホール

内容：諮問答申について